

日本学術会議のミッション

科学の進歩に寄与し、科学の向上発達及び科学の成果を通じて、
国民の福祉及び我が国の発展に貢献、ひいては人類社会の福祉に寄与。

資料 2
(組織・制度WG
提出資料)

Science for Science
(あるものの探求)

Science for Society
(あるべきものの探求)

Science for Policy
(政策への反映)

我が国の科学者の内外に対する代表機関（国民の総意の下に設立）

学術的活動
(高い独立性)

提言等、シンポジウム
国際活動

自律的な運営
(内部規則の制定)

自律的な会員選考
会長選考

- ・透明かつ厳正なプロセス
- ・国民、ステークホルダーに説明できるような選考

- ・学会や審議会ではできないアカデミーにふさわしい活動
- ・ステークホルダーとのコミュニケーション
- ・社会的にインパクトのある提言、科学的な意味でのロビーイング（政府や社会への周知、政策等に反映されるための努力）

見える化

- ・科学者コミュニティからのボトムアップ
- ・トップダウン型の提言
社会課題への迅速な取組み

- 科学の進歩と社会の変化が活動・運営に自律的に反映
- 国民の理解・信頼の確保に必要な高い透明性
- 自律的な組織に必要なガバナンス

必要な
財政支援

- ・重すぎない組織・制度
- ・シンプルかつ実質化

特別な法律に基づく地位・権限
(代表性、勧告等)に伴う業務運営

国による支援

組織としてのミッション、中期的な活動計画

会長のリーダーシップ
自己改革能力

事務局機能の強化 (PhD、URA)
財政基盤の多様化

運営判断・戦略機能のサポート（運営助言委員会）

適正・適切な業務遂行、予算執行（監事）
外部からの評価（日本学術会議評価委員会）